

働くこと・育てることを含む ライフプランを育もう プロジェクト



 甲南大学

本冊子は公益財団法人木下記念事業団
平成30年度学術研究活動助成事業の助成を受けて作成しました。

甲南大学 人間科学研究所

〒658-8501

神戸市東灘区岡本8丁目9番1号

Tel/Fax:078-435-2683

E-mail:kihs@konan-u.ac.jp

サイトは[こちら](http://www.konan-u.ac.jp/kihs/wp/)<http://www.konan-u.ac.jp/kihs/wp/>

2019年3月発行

発行・企画・編集/人間科学研究所

本冊子の内容を許可なく転載、複写、複製することを禁じます。



甲南大学 人間科学研究所
次世代育成研究チーム

人間科学研究所所長・代表研究者の挨拶

甲南大学人間科学研究所は、文部科学省の学術フロンティア推進事業の助成を受けて行われた共同研究事業（1998年～2002年度）の研究体制と成果を引き継いで、恒常に研究を進めるために、2002年に設立された研究機関です。現代人の心の危機と、その実践的解決のためのネットワーク創造を目的とした研究プロジェクトに取り組んできました。

「子ども・子育て」に関する研究については、2016年からKONANプレミア・プロジェクトに参与し、心理学、社会学、政策学、経済学などを専門とする研究チームで、行政等の学外機関とも連携しながら研究を遂行してきました。2018年度には、公益財団法人木下記念事業団の学術研究活動助成を受け、「次世代育成を含むライフプラン形成の促進を目指す実態調査・実践的研究・施策検討」と題する研究に取り組みました。同研究の一環として、このパンフレットを作成しています。

本研究は、将来の展望を形成しつつある思春期・青年期の若者が、「次世代育成を含むライフプラン」を豊かに形成できることを目的として、(1)働き育てる実態調査、(2)異世代交流体験の実践的研究、(3)地域性を踏まえた「子ども・子育て」施策の検討という3つの研究を行いました。研究は学生の参加を組み込んで実施し、学生たちにとって実り多い経験になりました。さらに全学の学生を対象に研究成果を還元するために、共通教育科目として「ライフプラン教育」を2019年度より開講します。教育効果を検証し、「次世代育成を含むライフプラン形成」のための新たな研究課題を見出して取り組むというような、研究と教育の有機的な相互発展を目指すつもりです。

本パンフレットには、「次世代育成」研究に取り組む研究員の「研究紹介」と、「ライフプラン教育」で学生に伝えたい内容とが紹介されています。皆様にご覧いただき、研究活動に関心を寄せていただくとともに、ご参加やご意見をいただけますことを期待しています。学生の皆様には、共通教育科目「ライフプラン教育」の履修を歓迎しています。

2019年3月吉日

甲南大学人間科学研究所所長 北川恵
同兼任研究員・代表研究者 大澤香織

共通教育科目「ライフプラン教育」が新規開講します！

※2019年度は
後期月曜5時間目

（年度により開講曜日時限や担当者が変わることがあります。シラバスを確認ください。）

現在日本では、
「少子・高齢社会」の到来とともに、
子育てを「ライフプラン」に
どうやって組み込むかが
問題となっています。

また、社会に出て
一定の年月が経過してから、
「もっと早く考えておけばよかった」と後悔する人もいます。

学生時代には、就職という課題を通してそれぞれ個人のライフプランを形成することが求められます。その際、ライフプランにとって、「結婚」「子育て」の展望が重要な要素となるはずなのですが、現実には、目の前の就職にのみ集中して、それらの問題は先送りされることが多いです。

「ライフプラン教育」では、子育て問題に関わっている研究者である諸分野の教員が、それぞれ異なった切り口で、現代の子育てをめぐる様々な状況を踏まえた「ライフプラン」について講義をします。

受講生が自分の
ライフプランについて
考える機会を
提供していきます。

次のページから
研究員の紹介が始まります。
皆さんへのメッセージも
ありますので読んで
くださいね。



甲南大学 人間科学研究所 兼任研究員

甲南大学 経済学部経済学科 准教授

足立 泰美 専門領域:財政学

研究紹介



財政学、なかでも地方財政について学びます。

社会ってどうしたらよくなるの?みんな考えてベストを尽くしているのに、

うまくいかない。その要因を人の性質や感情といった、その人自身に答えを見出すのではなく、人が置かれてる状況、つまり社会の構造や制度の仕組みから答えを見つけていきます。

そして国および地方自治体の社会の仕組みを知ったうえで、制度や財政が家計に与える影響を家計の消費や貯蓄の変化から探求します。



ライフプラン教育の内容



都道府県および市町村が進めている雇用、婚姻、出産、子育て政策。

これら政策を1つ1つ取り上げ、各サービス給付にはどのようなものがあるか、

誰によってどのような形で提供されているのか、現場の実態を学びます。さらにサービスを提供するには財源が必要です。財源である税と社会保障負担、どこから、どのようなルートで、どの程度の財源が確保されているかといったお金の流れを探っていきます。

そこから見出される給付という受益と財源という負担の関係を考えていきましょう。

●研究員は五十音順でご紹介しています。



甲南大学 人間科学研究所 兼任研究員

甲南大学 文学部人間科学科 准教授

大西 彩子 専門領域:
学校臨床心理学
社会心理学

研究紹介



小学校、中学校、高校のいじめの研究をしています。特に、学級集団などの環境要因や児童・生徒の認知の歪みに注目しています。また、海外のいじめと日本のいじめの比較研究、いじめ対応やいじめに関する制度の相違についても関心をもっています。

学校適応や発達に問題のある児童・生徒の支援に関する研究もしています。



ライフプラン教育の内容



いじめは子どもから大人までの各発達段階で直面する可能性のある対人関係の大きな問題です。いじめの加害者にも被害者にも傍観者にもならないために、知っておくべき心理学の知識を提供したいと思います。

いじめにはどのような種類があり、いじめの発生には何が影響するのか、いじめに関する認知の歪みなど、社会に出て様々なハラスメントから自分の身を守るために、また、親になったときに子どもをいじめから守るために、この授業でいじめについて考えてほしいと思います。



甲南大学 人間科学研究所 兼任研究員

甲南大学 文学部人間科学科 教授

北川 恵 専門領域:発達臨床心理学

研究紹介

子どもにとって、頼れる大人(親や先生など)との関係を通して「安全・安心」を得ることができる経験(アタッチメントが満たされること)が、健全な発達の基盤となります。私たちは2009年から、甲南大学人間科学研究所において、米国で開発された親子関係支援プログラム(Circle of Security)を実践し、効果を検証してきました。2013年にはプログラムの日本語版(「安心感の輪」子育てプログラム)を作成し、日本への紹介・導入も行っています。研究所において地域の親子を対象にプログラムを行うことは、大学における地域貢献であるとともに、学生たちも積極的に参加することで実践的な学びの場にもなっています。次世代育成に関する研究として、学生たちにとって、乳幼児や子育て中の親と交流する経験が、「働き育てることについての展望」にどのような影響を与えるのかを検討しています。



ライフプラン教育の内容

ライフプラン教育では、まず、私が長年実践してきた「アタッチメントに焦点を当てた親子関係支援」について紹介します。プログラムの理論的背景、内容、効果について、初めて学ぶ皆さんにもわかりやすく説明します。プログラムの重要なポイントは、いずれ皆さんが子どもと関わるときにもヒントになると思います。次に、人は生涯にわたって発達するという視点に立ちながら、「親になることによって成人はどのような発達をとげるのか」ということについて、研究知見を紹介し、皆さんと考えたいと思います。授業を通して、皆さん一人一人が「働くこと」「育てるこ」を積極的に考えていただければと思います。

(*2019年度は授業を担当しません)



(大学院生 児玉 樹さん作成)



甲南大学 人間科学研究所 博士研究員

木下 雅博

専門領域:臨床心理学・児童心理学

研究紹介

私は児童期(小学生)の子どもと社会との関係について研究しています。

例えば、子どもたちの遊びや仲間関係が社会性に与える影響や、子どもたちの将来の夢やその夢を実現させる計画性を育む要因、小学生・中学生・高校生・大学生の各段階におけるキャリア教育とライフプランの関係などです。これらの研究により、子どもの社会への適応、言い換えれば生きやすさ、生活しやすさを向上させるための知見を得ることを目的としています。



ライフプラン教育の内容

各世代(小学生、中学生、高校生、大学生)におけるキャリア発達の課題と、キャリア教育の重点についてお話しします。大学生になってから就職を強く意識し始める人が多いようですが、実はもっと幼い子どもの時から、仕事をすることについての教育は始まっているのです。大学生にとっては、これまでの自分のキャリア発達に関する体験を振り返り、意味を確認しながら機会であるとともに今後、親となり、子どものキャリア発達を確認し、促す際の手掛けりとなるでしょう。





甲南大学 人間科学研究所 兼任研究員

甲南大学 文学部社会学科 教授

中里 英樹 専門領域: 家族社会学・ジェンダー論

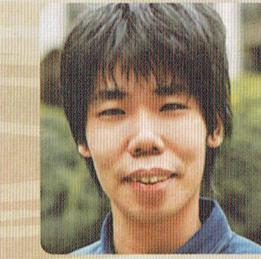
研究紹介

ワーク・ライフ・バランスという言葉を目にすることが多くなりました。今から20年ほど前、自分自身や同世代の友人が父親になったころから、子育て期の仕事と生活というものを研究テーマにしてきました。その後、オーストラリアでの在外研究や育児休業に関する国際研究ネットワークのメンバーとしての活動を活かして、育児休業制度を中心に仕事と家族に関する制度の比較や、父親の育児休業取得をめぐる夫婦や職場の状況についての調査を進めています。育休取得をはじめ父親が子育てに深く関わることが、父親本人、子ども、さらには社会全体にとってどのような意味を持つのか、また日本でそれが難しいのはなぜなのか、それを乗り越えるためにはどのような方策があるのか。このようなことを考えるのが、今の私の研究課題です。



ライフプラン教育の内容

ワーク・ライフ・バランスという概念を通して、仕事、家族、自分の時間、地域での活動など、さまざまな領域の調和という視点からライフ・プランを考える土台を作ります。さらに具体的には、特に仕事と子育てをめぐる日本の状況を、ジェンダーの視点もまじえて、北欧諸国、ドイツ、オーストラリアなどさまざまな国の状況と比較しながら理解していきます。このようなことを通じて、受講生の皆さんのが、現状の当たり前を対化しながら、自分のこれから的人生を切り開いていく知恵を身につける手伝いができると考えています。



甲南大学 人間科学研究所 兼任研究員

甲南大学 文学部人間科学科 講師

野崎 優樹 専門領域: 感情心理学・人格心理学

研究紹介

私たちの日常では、悲しんでいる相手を励ます、怒っている相手を宥めるなどの形で他者の感情を調整することがしばしばあります。私の研究では、どのように相手に関われば、その人の感情を上手く調整することができるのか、その心的過程を明らかにする研究を行っています。また、これらの研究成果を海外に向けて発信することにも注力しています。

さらに、ライフプラン教育を通して得られるものなど、社会的に重要な能力を測定する試みにも携わっています。



ライフプラン教育の内容

文部科学省では、学校教育で身につけるべき力として、以下の4つの能力を「基礎的・汎用的能力」としてまとめています。

- 1)人間関係形成・社会形成能力
- 2)自己理解・自己管理能力
- 3)課題対応能力
- 4)キャリアプランニング能力



この枠組みに基づきながら、社会で役立つとされるこれらの能力は自分自身の将来とどのように結びついていくのか、また、大学生活におけるどのような機会を通してこれらの能力を育むことが可能のかを考えていきましょう。



甲南大学 人間科学研究所 兼任研究員

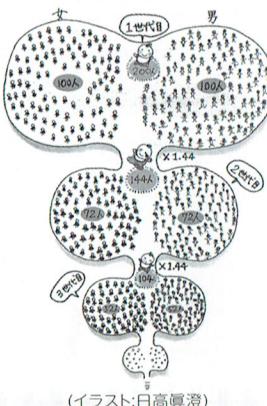
甲南大学 マネジメント創造学部 教授

前田 正子

専門領域:
社会保障・少子化・
保育制度・家族政策

研究紹介

日本の少子化対策・家族政策・保育制度などについて研究しています。実は日本の人口は減り続けています。2018年には92.1万人の赤ちゃんが生まれましたが、136.9万人の人が亡くなっています。つまり1年間で44.8万人の人口が減ったのです。それは毎日約1200人が日本から消えていたことになります。しかも2016年の合計特殊出生率(女性が一生の間に産む子どもの平均)は1.44、2017年は1.43でした。男女2人の人間がいて初めて子どもが生れますので、2人の人間から1.44人しか産まれないということになります。日本の人口はこのままいくと一世代ごとに、3割ずつ減っていくことになります。一方、多くの人が結婚したい・子どもを持ちたいという希望を持っています。それが実現できないのはなぜか、どういう支援や制度があれば、人々が望むだけの子どもをもつことができるかなどを考えています。



(イラスト:日高眞澄)

ライフプラン教育の内容

まず前半では、少子化が進む中で若い世代のこれから生き方について考えていきます。少子化が進み、働き手が足りない現在では、専業主婦家庭は少数派で共働き家庭が多数派です。ですが家事育児の負担は女性にばかりかかっています。女性が子どもを「産んでもいいな」と思うには、夫の家事育児の分担が欠かせません。その意味でも男女ともに働き方改革が必要です。さらに、子育てしながら働くには保育園が不可欠です。また少子化が進む中で、保育園は子どもが集団で交わり遊べる数少ない場でもあり、子どもの発達成長を促す場もあります。初めて子育てをする親にとっては子育てのアドバイスをもらえる、子育てのパートナーでもあります。日本の保育の仕組みは現在、非常に複雑になっています。後半では日本の保育制度と課題や保育園の意義についても学んでいきます。



甲南大学 人間科学研究所 兼任研究員

甲南大学 文学部人間科学科 教授

森 茂起

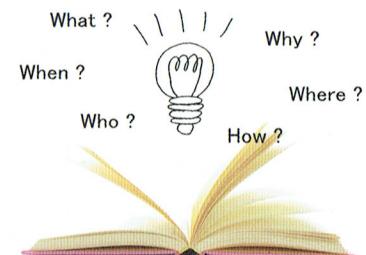
専門領域:
臨床心理学・トラウマ学

研究紹介

社会的養護の下で暮らす子どもの成長に影響を与える環境要因の研究をしています。本や芸術との触れ合いなど、幅広い意味の学習機会を提供することの重要性を示すデータが得られています。

特に、人と人との関わりを通して文化的な経験を積み重ねることが大切です。

また、兵庫県下の子育て支援の現状と課題を、大都市圏、中核都市、多自然地域といった異なる地域の訪問および実践家へのインタビューを通して分析しています。少子化が進む中で、地域間格差が生じており、子育て支援の主体となる市民の次世代育成を各地域で進める必要があります。



ライフプラン教育の内容



次世代育成は社会が取り組むべき中心的課題です。そのためには、「社会による子育て」という考え方を定着させることが大切です。各地域に子どもが参加できる活動や場所があり、そこから若者、親世代、高齢者の多世代を含むネットワークが広がり、次の時代に受け継がれていく必要があります。学生それぞれが、自らの「ライフプラン」の中に、「子どもを育てる」ことを組み込んでいくようなビジョンを提供できればと思います。必ずしも自身の子どもを持つことだけが目標ではなく、社会が次世代に引き継がれていくことの重要性を理解して、子どもが健康に育つ社会の実現に貢献してもらいたいと思っています。